

とうほく街道会議第13回交流会 大館大会

第1分科会 記録集



平成29年 10月 13日

とうほく街道会議第13回交流会

大館大会実行委員会

「とうほく街道会議第13回交流会 大館大会」 ～ “歴まち” 大館の明日を考える ～

【第1分科会】 鼎談『大館地方の交通史から新たな交流を探る』

近世における羽州街道、米代川舟運や、明治以降における道路整備が果たしてきた役割を歴史的（縦軸の流れ）・空間的視点（横軸／面的広がり）から探り、新たな交流を踏まえた歴史まちづくりを話し合っていました。



【開催日】 平成29年10月13日（金）16:00～17:30

【会場】 「大館市民文化会館」中ホール（大館市桜町南45-1）

【鼎談者プロフィール】

清野 宏隆 氏（大館市文化財保護協会事務局長） ※主に「近世について」



三種町生まれ、大館市在住。昭和38年新潟大学人文学部卒業。昭和38年花輪高校以来、大館鳳鳴高校などで教鞭をとり、大館高校校長、能代高校校長を歴任。現在、大館市文化財保護審議会会長、大館市文化財保護協会事務局長。藩政時代の町割図をつかい「城下町大館の昔と今」の講演や「大館歴まち散歩」の案内などを行っている。また、安藤昌益や狩野亨吉など大館にゆかりの人物にも造詣が深い。

坂 憲浩 氏（能代河川国道事務所所長） ※主に「明治以降～現代、高速道路時代について」



埼玉県生まれ。平成6年中央大学理工学部卒業、平成8年中央大学大学院理工学研究科修了。平成8年北海道開発庁入省、北海道開発局、国土交通本省北海道局・道路局勤務などを経て、北海道開発局札幌開発建設部千歳道路事務所長から、平成28年4月能代河川国道事務所所長就任。

福原 淳嗣 氏（大館市長） ※主に「歴史まちづくり」について（進行役兼務）



大館市生まれ。平成7年慶應義塾大学法学部卒業。平成7～15年大館市議会議員2期。平成15年野呂田芳成衆議院議員公設第一秘書官・政策担当秘書官、平成21年金田勝年衆議院議員政策担当秘書官。平成23年コンサルティング会社主席研究員を経て、平成27年大館市長。現在に至る。市政運営の5つの柱の1つとして、「にぎわいのまち大館」を掲げて、歴史と文化のまちづくりを進めている。

鼎談『大館地方の交通史から新たな交流を探る』

福原淳嗣(以下福原): 皆さんよろしくお願ひします。

なぜ私が進行役は理由があります。清野先生は、私の高校時代の恩師です。当時ラグビーボールしか好きじゃなかったのですが、先生のおかげで、歴史が大好きな大人になってしまいました。

もう一人は、能代河川国道事務所の坂所長です。至る所で、坂さんの話が聞きたいということで、日程がどんどん埋まっているという状況です。恐らく、県北の中で一番人気のある人ではないかと思ひます。

今日は、清野先生からは大館の歴史・街道の話を、坂所長からは街道が明治以降どういふ流れになっているのか。私は、これまでの道づくりとこれからのまちづくり(歴史まちづくり)とそのためのみちづくりの話をさせて頂きたいと思ひています。なお、私は、理由は後ほど申し上げますが、今日 17 時で離席させていただきますので、ご理解をよろしくお願ひ致します。

では、最初に清野先生からお願ひいたします。

羽州街道の実情と役割

清野宏隆(以下清野): 先ほどの基調講演で渡辺先生から大変すばらしいお話を聞きました。

私は、近世の羽州街道と大館地方について、範囲を絞って話を進めていきます。

羽州街道は、福島桑折から青森油川までの 58 次(宿)です。幕府と藩は街道の整備をしました。一里塚が築かれて、また、街道筋の農民の労働力で街道を造っています。また、要所に関所を設置します。大館では、御境口番所(おさかいぐちばんしょ)というものを津軽との境・長走に置いています。それから、津軽藩主の参勤交代は、大間越口から寛文年間に碓ヶ関口へ変更しました。

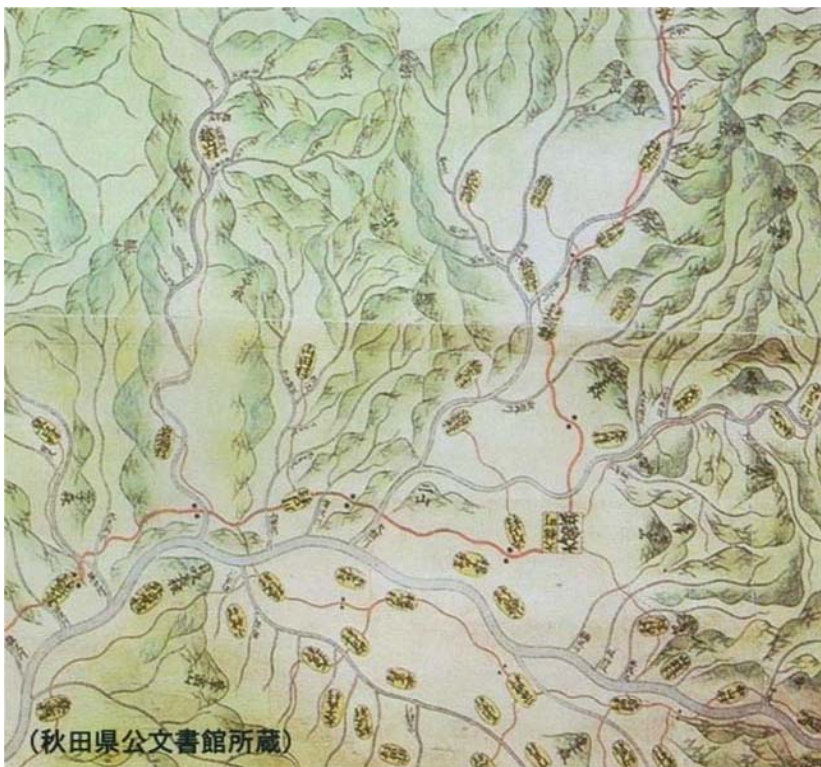


図-1 『出羽国秋田領絵図』の大館

御境口番所(おさかいぐちばんしょ)というものを津軽との境・長走に置いています。それから、津軽藩主の参勤交代は、大間越口から寛文年間に碓ヶ関口へ変更しました。

先ず、羽州街道の道筋と今に残る原風景を見ることにします。

大館市西端(旧田代町)に長坂があります。国道7号からの坂は、江戸時代にはもっと急坂で、道路幅は今の程度です。

大館市内の近世の羽州街道は、御坂から神明社前に出て、そして今の常盤木町、大町、田町、川原町、独鈷町、通町を経て、長木川を越えて津軽方面に行きました。明治天皇の御巡幸もここを通過しています。

萩長森の付近は、左手に下内川があり、右手に萩長森の山があつて暗く寂しい道が続きます。

矢立峠の一部は、左右は急峻な沢になっており、冬は大変だつたと思ひます。

次に、絵図に見る羽州街道です。図-1は、『出羽国秋田領絵図』の大館部分で、絵図

としてかなり正確なものです。鹿角街道も書き込まれています。

川口村を中心に書かれた貴重な絵図(『渡辺斧松文書』)があります。羽州街道が東西に真っ直ぐ書かれて、川口村の豪農、小林重右衛門が開発した重右衛門堰が赤線で描かれています。

図-2は、寛政4年(1792)の『片山村絵図』で、藩の役人が検地のやり直しの際に作成したものです。御坂の方に道路がぐっと曲がっています。東西に羽州街道が見えますが、今の国道7号です。北側が片山村、南側が根下戸村でした。

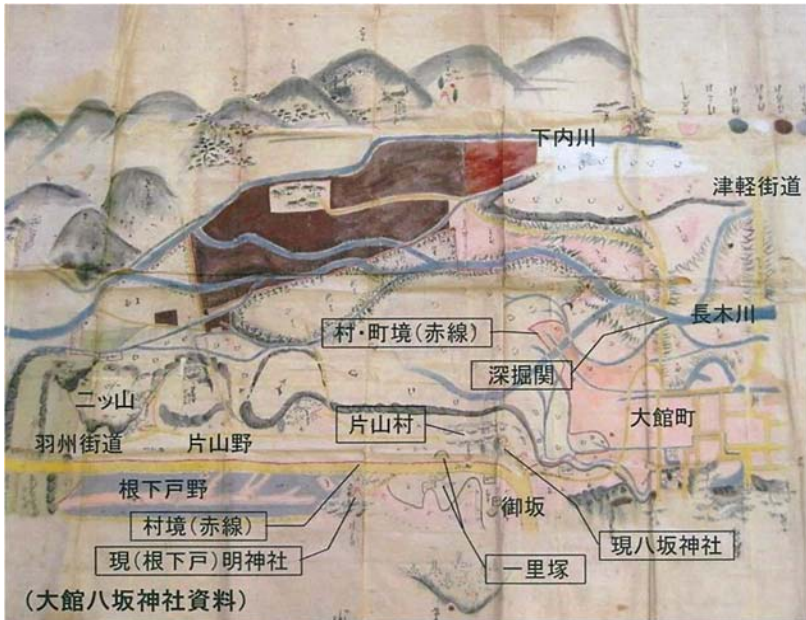


図-2 片山村絵図



図-3 矢立峠の道

図-3は矢立峠の道で、絵図(『久保田ヨリ矢立杉迄行程』)にあります。難所だったということが分かると思います。

道の普請と維持は、藩にしてみれば重要なことだったと思いますが、道路づくりと維持は村々の農民によって行われました。

村々に場所(丁場)を決めて、担当させました。近郷近在の村々がそれぞれ丁場を持って、「壊れた」というと直ぐに行き、補修工事をしたということです。例えば、花岡村は、当時の家が85戸ですけど、矢立峠の付近を担当しています。「長丁場」という言葉がありますが、長いと苦労が大きかったと思います。それから、石井嘉右衛門、小林重右衛門、佐藤文治は、農業土木の権威者です。恐らく道路のことも、彼らは技術を持っていて指導にあたっただろうと思います。

河川は、道路交通上の大きな障害でした。早口川は船渡し、夏は徒渡り(かちわたり)、仮橋が架かることもありましたが、長木川も同じです。『小坂通道中記』によると船渡し、夏は瀬越し(歩いて渡る)です。津軽藩主が通る時は、仮橋が架かることもありましたが、その時、大館城代が川の所まで行って、挨拶をしたという記録が残っています。

近世の大館のまちづくり

大館の城下町は図-4で、羽州街道とうまくマッチして繁栄したと言って良いと思います。当時のまちづくり



図-4 宝暦9年(1759)大館城絵図

は、町割(まちわり)という言葉を使います。本丸、二の丸、三の丸が大館城内です。そして、武士が住む町を内町、町人(農民も含む)の町を外町(とまち)と言っていました。身分制や軍事をしっかり意識した都市計画で作られているということがポイントです。

羽州街道沿いに外町が出来ていますが、人と物が行き来する流通の役割を担ったわけです。武士が生活していく上で、商工業者が当然必要で、重要であったわけです。今日においても、内町は住宅地、町人町はほぼ商業地になっており、当時の町割の面影を残しています。当時の城下の街づくりは、領主の強い権力によって行わ

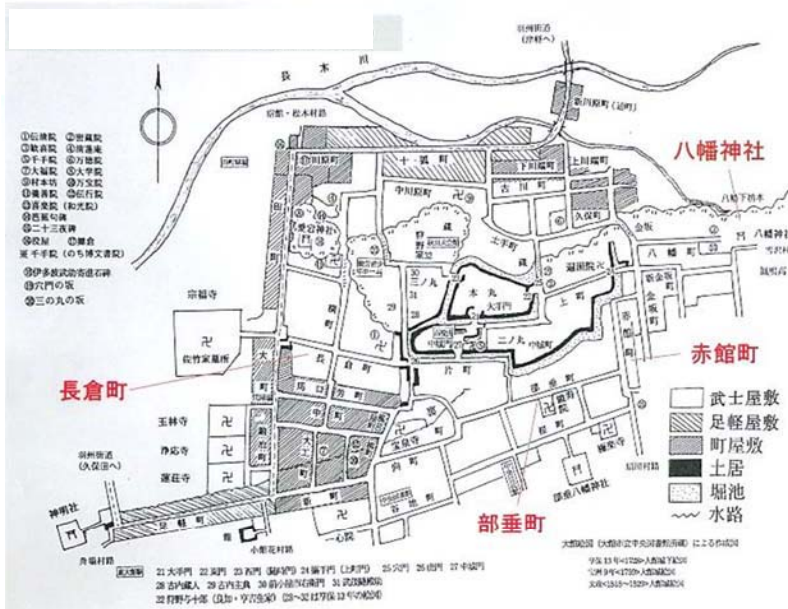


図-5 藩政期の大館町図(模式図)

馬口券町、中町に住んでいた百姓たちを田町や川原町に移し、荒町を大町に改称しました。大町には、交通関係の宿駅業務(公用書状、伝馬、助郷)の間屋場や大名宿の本陣がありました。それから300年余、最近まで大町は商業の中心をなしていたということになります。

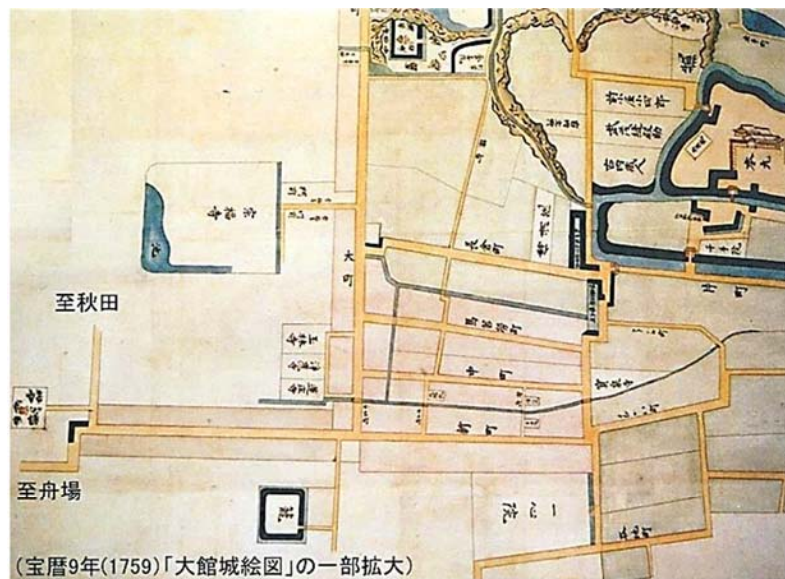


図-6 外町4町

になります。移入品は、木綿や古着です。古着が上方からだいぶ入ってきました。物資の輸送においては、海上交通や河川交通のほうが陸上交通より役割が大きかったと言って良いと思います。

幕末に出版された『東講商人鑑』という本があります。これは、東日本を中心とした色々な町にどんなものがあるのかを商人などの旅人が予め知っておくために作られたと良いと思います。これに外町4町が掲載されており、街道や舟運という交通基盤がバックに繁栄していたと言って良いと思います。今でも当時の店の名前がそのまま使われています。

明治以降現代までの道路整備の変遷

福原: 有り難うございました。今の清野先生の話で、街道を作り、維持補修をするのは農民の仕事であったということですが、平成の今は、能代河川国道事務所です。続いて、坂所長に明治以降についてお願いします。

れましたが、現在は住民の合意が先ずは必要です。

大館城跡には、掘割と土塁が残っています。

大館八幡神社は、国指定の重要文化財です。八幡神社と大館城跡というのは、重要な歴史資源ということになるでしょう。

図-5は大館町図(ちょうず)で、色々な絵図をもとに作成した模式図です。常陸大宮市に由来する長倉町、部垂(へだれ)町、赤館町という由緒のある地名が残っています。大館は、古い地名をそのまま変えないで今あることに非常に意味があると思います。

街道沿いの外町は、流通の中核として、歴史的役割を果たしたわけですが、延宝3年(1675)の大火を1つのきっかけとして、荒町、

図-6は図-4の部分拡大です。大町、馬喰町、中町、新町は、外町4町という言い方をされていますが、お祭りもこの4町が行っていた様です。

更に北の方に行くと田町、これから東の方に向かって川原町、独鈷町で、通町までが外町です。

図-4ほか、享保や文政の城下絵図を見ても変化がほとんどありません。あえていえば、停滞しているという感じもうけるわけです。

米代川の舟運ですが、川筋には、舟場がありました。このなかで、大館船場は大きな河港だったわけです。能代で北前船とも結ばれていました。移出品は、米や木材など

坂憲浩(以下坂): 私は、国土交通省東北地方整備局の出先の能代河川事務所に勤務しており、河川は米代川、森吉山ダム、道路の国道7号、秋田道の維持管理、建設等を担当している事務所です。秋田道は、これからは EXPRESSWAY の頭文字をとってE、そして国道7号の7をとって、E7とうふう愛称で呼ばれていきます。今日のキーワードです。



図-7 羽州街道・国道7号(八郎潟～能代間)の変遷

図-7のとおり、近世の羽州街道は、八郎潟の方から桧山のお城を通りながら鶴形の方に抜けていくようなルートになっております。

現在の国道7号は、大正元年の時は国道表の41号でした。当時は国道番号が振られてない時代で、国道は表になっていて、その41番目にあっただけです。この国道表の41号は、明治18年2月24日、全国44路線を内務卿が告示しました。

その後、大正8年に道路法が初めて日本にできて、大正9年4月1日に施行されます。その

の時の番号が国道5号です。昭和27年に道路法改正があり、ようやく今の国道7号という番号になりました。

明治18年の当初のルートは、秋田から一日市、桧山を経由して、鶴形、荷上場、大館、白沢、弘前、そして青森至る道でした。ところが、明治20年に秋田県議会の議長が、内務大臣あてに国道の路線を桧山回りから能代の港経由に変更してほしいと建議書を出し、明治23年に能代港町経由に許可されています。その路線変更の建議書には、桧山の方がいたら大変失礼かもしれませんが、「桧山経由の道は、原野の中を通り数里の間には一軒も人家がない」、「地形も峻坂険路多く、平坦路を得がたいこと」、3番目に「雪も多く、村落もないので、交通量少ない」。そして、「新しい道は、平たんなこと、沢山人も住んでいて交通量も多い」と利点をあげています。

でも、桧山の方々ご安心ください。建議書を出したほぼ同じ頃の明治11年に大英帝国の女性旅行家イザベラ・バードがこの地を訪れています。彼女は、それまでのところと違い、「サムライの村である桧山は例外です。そこは美しい傾斜地にあります。家は一軒建て、美しい庭園があり、門構えは非常にすばらしい。洗練されて静かな暮らしを楽しんでいるように見えました。」と書いてくれています。桧山は、外国人から見て素晴らしいところなのです。

この頃の貨物輸送について、明治8年、当時日本一の小坂の鉱山に最新鋭の製錬の機械を運ぶ詳細な記録が『小坂鉱山100周年誌』にあります。

ドイツ人機械技師ハクマイル(ハートマイヤとも)の日記によると、運搬総重量400tある最新鋭諸機械とともに横浜港に到着、能代港は水深が浅くて使用できなかったため、6月に横浜港から釜石、津軽海峡経由で船川港に持ってきます。それからどの様にして小坂まで持ってくるのかということが面白いです。

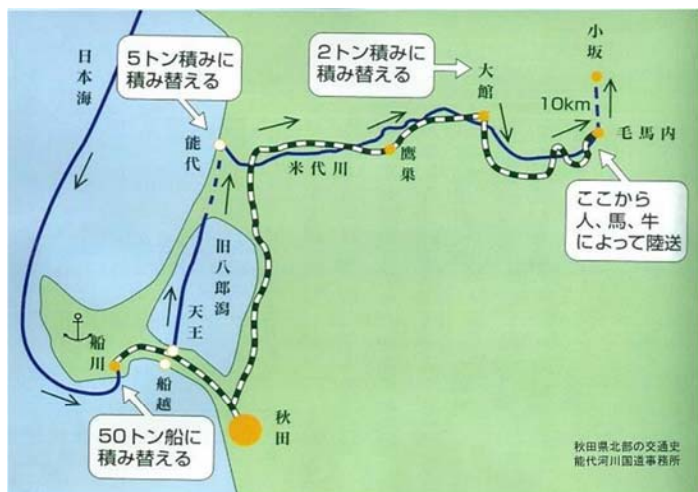


図-8 船川から小坂までの運搬行程

図-8のとおり、まずは、平底船(50t積)に積換えて八郎潟を横断します。そして、地峡に沿って能代に至ります。

ここから小型船(5t積)に積換えて、米代川を遡って大館に進み、またも小舟(2t積)に積替えて毛馬内に運びます。ここからの10km行程は人と牛馬で運搬しました。

10月下旬まで続き、一番重い荷物は900kgだそうです。

ゼロ戦も牛で運びましたから一緒です。精密機械運ぶのには必ず牛が出てきます。

八郎潟から能代までの地峡が、どうなっていたのかと非常に気になるところです。ここは、出戸沼・

長崎沼・浅内沼などがあり、自然の水路になっていたのではないのか。だから、大型の運搬には牛や馬で運ぶのではなく、船で運んだ方が効率良いわけです。

ここに水路があったということになると期待されるのが運河です。これが、『能代港物語』(出版:昭和48年・北羽新報社)に書かれています。米代川から八郎潟を経て船川港までの運河計画があり、昭和14年に予算まで付けようという動きがありました。ただ、時代は太平洋戦争に向かっていくわけで、この計画は幻の運河計画となりました。

さて、道路整備の進んだ現在は、大館市の田代に三菱重工のロケット試験場の例があります。能代港からロケットエンジンや燃料等を特殊な車両で運搬しています。あの当時、小坂鉱山では何ヶ月もかかって運んでいたものが、今は1日です。

今日の秋田魁新聞に秋田港に世界最大級のクルーズ船を寄港させるため、今、調査している記事がありました。明治8年の時も能代港が浅いために港に入らず、船川入ったことから、運河計画が出てくるわけです。



図-9 明治7年の大館地方の新国道

それと同じような形で、どの時代になっても港がしっかり機能しているかどうかが大事なわけです。

大館地方の道路整備は、明治7年に北秋田郡綴子村から釈迦内村で始まり、明治11年に完成しました。明治天皇のご巡幸にあわせて整備されたものです。図-9は、非常に良いところを写したと思いますが、この様な風景だった様です。

江戸時代の街道は、政治的・軍事的意図等で川を渡るのが非常に支障になっていて、明治新政府になってから、道路交通網整えようということで、架橋も急速に行われていったということです。

道づくりの効果

福原: ありがとうございます。2人の話を要約すると、羽州街道時代は、人や物の交易の街道であった。それが明治維新以降は運ぶものがだいぶ変わってきたということですね。続いて、坂所長にこれらの道づくりの効果について、お願いします。

坂: 図-10は、明治16年から大正5年までの馬車や人力車などの台数をグラフにまとめたのです。奥羽本線全線開通が明治38年ですが、この時から人の乗る馬車が増えてきています。これは面白い傾向にあると思います。それまでは大館から能代や能代から秋田などの遠いところに行く時は馬車とかを使わないといけなかったのですが、駅が出来て、町中から駅に向かう短い距離を使うのが増えていった可能性があるかと想像されます。

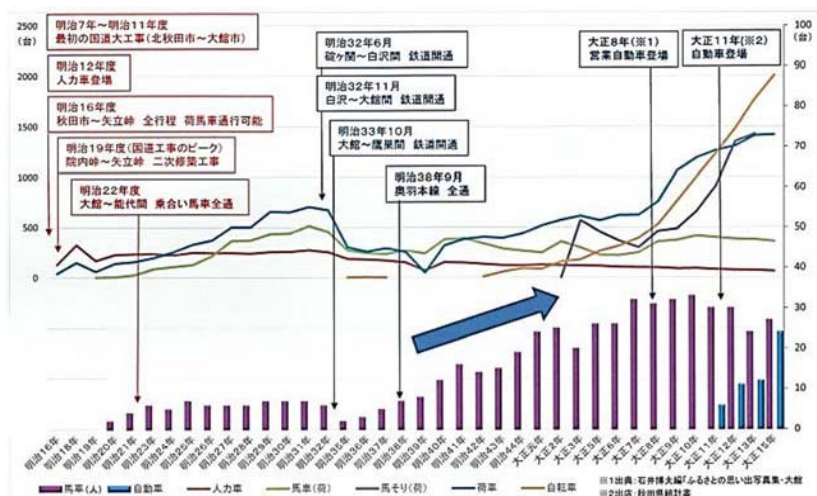


図-10 交通車両の推移

明治20年度・大正元年・昭和元年の乗用馬車、人力車、馬車(貨物)、自転車の登録台数を見ると、大館北秋田地区が全国的な伸びよりちょっと遅れながら、人力車から自転車や自動車に移ってきている感じがします。面白いのが、遅れはするけども、昭和元年までの伸びが一気に伸びています。

明治からの移動の時間変化を見ると、明治時代は馬車で、大館市から能代市まで6時間、能代市から秋田市までは6.5時間を要したと大館市史あります。それが平成8年度末だとそれぞれ1.4時間、

1.5時間に、平成29年度末では大館能代間が1.2時間、能代と秋田間が1時間となり、道路整備とともに時間距離が大幅に短縮しています。

今後の更なる交流に向けた方策

福原： どうもありがとうございました。道が整うと、人・物の交流が進むというお話でした。

それでは、私からは、2つの「みちづくり」のお話をさせていただきます。1つは、道を造るということが、どれぐらい町の経済を活性化させるかという話です。それから、まちづくりへの新しいみちづくり、つまり町と町を繋げる物語を使って意味あるものにしていこうという話です。

まず、県内初の認定を頂いた大館の歴史まちづくりは、景観十年、風景百年、風土千年のまちづくりです。

大館は、大火災が繰り返されている町でありました。昭和16年の市政執行以降でも4回大火がありました。その大火復興のため、例えば大館の下水道の整備が進んでいません。すべてがそうです。まちづくりは、今だけ切り取ることは出来ません。先人から受け継いだマイナスの部分をもの様にプラスに変えていくということが重要になってきます。

一番重要な国土軸を形成する高速道路が、今年度にあきた北空港までの1.7km開通します。これらの道路が出来てきたことで、どの様なことで何が起きて来ているかをお話します。

今の大館は、道のおかげで、県内で最も有効求人倍率が増えています。

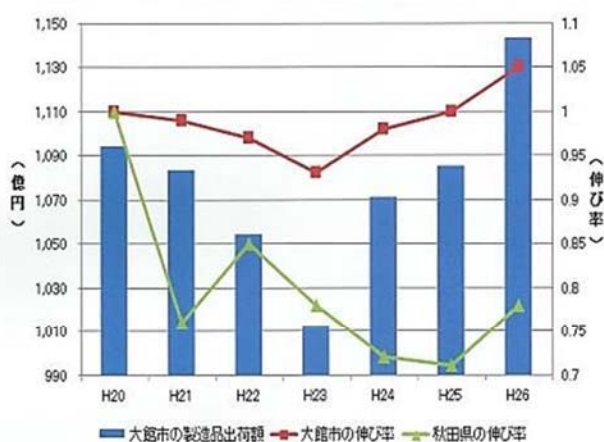


図-11 大館市の製造品出荷額の推移

製造品出荷額を見ると、図-11は大館市のデータですが、能代山本地区は約870億円、大館北秋は、その2.5倍の1,900億円で、間もなく2,000億円を越え倍増します。住む人が減っているのに製造品出荷額が伸びています。

かつ、面白いのは、能代・北秋田・大館の製造品出荷額を人口で割ると付加価値生産性という指標になりますが、これが県庁所在地の秋田市を圧倒的に超えることとなります。これがとても重要な日沿道を軸にした経済波及効果の話です。これからは、この効果を大館の果実だけにしたいと考えています。

私は、貧乏学生だったので、トヨタの工場働きながら学校に通ってました。トヨタの企業城下町の中に日本で

一番サラリーマンの給料の高い町がありますが、その町はみんな名古屋に帰る方やマンションばかりで商店街ありません。そういう町にはいけないと思います。そこに住んでいても、その町が嫌いだったら、全然意味がありません。

だからこそ、これからのまちづくりは、大館人としての歴史と誇りを持って、そこから仲間をつくっていく、町と町が繋がり横に展開して行くため、ハードとしての道が必要だと考えています。

今年3月認定を頂いた歴史まちづくりの「大館市歴史的風致維持向上計画」には、6つの柱があります。

- ①大館城下の町割りに残る歴史的風致
- ②扇田神明社をめぐる歴史的風致
- ③田代岳の作占いに見る歴史的風致
- ④天然記念物「秋田犬」を守り育てる歴史的風致
- ⑤鳳凰山周辺に見る歴史的風致
- ⑥浅利氏ゆかりの独鈷の歴史的風致

大館のまちには、大館市役所のところに佐竹西家の城、国指定重要文化財の大館八幡神社、大館神明社、そして、内町・外町があります。内町には、長倉、部垂(へだれ)、赤館などの武士町で、私が小学生の頃、この辺はまだ古い屋敷がたくさんありました。また、羽州街道は、御坂をきて、神明社、常盤木町、大町通って、長倉の交差点から川原町通って行きます。

これらの歴史資源でテーマパークを作るのが歴史まちづくりではありません。先人から受け継いだそれぞれのストーリー、あるいは町の流れから、自分たちの大館人としての誇りを取り戻したいと思っています。

この様な大館人としての自信と誇りがあればこそ、今、どういう動きになっているかです。大館は人口がだんだん減ってきていますが、大館と一緒に楽しいことをやろうという自治体が増えていて、学生の

頃、クラスの中に人気者がいました。人気者は共通しています。いつも笑顔で、他人の悪口言わない、何か面白いことしよう、の3つです。

今の大館市はこの3つをして、次のことに取り組んでいます。

地域連携DMO(Destination Management Organization)として、小坂町、大館市、北秋田市、上小阿仁村で秋田犬ツーリズムを作りました。秋田犬のYouTube動画は、もう200万回見られています。私は更に高めていきたいと思っています。

そして、3つの館(函館、大館、角館)の3D連携です。函館も、角館を有する仙北市も連携をすると約束くれましたので、更に進展して行きたいと思っています。



図-12 羽州街道と歴史まちづくり都市

東北では、図-12のとおり、歴まち認定都市が8つありますが、それを羽州街道で繋いでいくと弘前と大館の関係はさらに深まって行きます。ここに3D(函館・大館・角館)を落とし込んで行くと、違う動きが出てくるのではないかなと思います。

更に、後三年合戦の横手市と美郷町から平泉に移り、東北奥州の概念を打ち立てて、大館の二井田(贅柵)で殺害されたのが藤原泰衡

で繋がります。今、横手の高橋市長と美郷の松田町長、そして、世界文化遺産の中尊寺の山田貫首、毛越寺の藤原貫主と組んで、奥州藤原の案を検討しています。歴まちを含めて色々な展開が可能だと思います。

あと、鶴岡ですが、2代目の現・ハチ公像の原形の石膏像がある繋がり、連携が出来ます。

大切なのは、大館という町に住んでいて、大館を知り好きになる。そうすると、同じようなことを考えている町とどんどん関係性が深まります。それをネットワーク化していく上で、一番大切なのは、やはり道です。これがこれからの道づくりを介したまちづくりです。



図-13 多様なネットワークの構築

そして、図-13の様に陸路、空路、海路を通じて東北全体に展開をしていくという流れを作っていきたいと考えています。

今日、なぜ私が中座するかというと、渋谷と秋田・東北を繋げるためのハチ公サミットに出席するためです。東北に来るお客様を3万人にするという政府の政策を実現するために、昨年4月1日に仙台空港が民営化されました。その民営化された企業グループの中

核が、渋谷の忠犬ハチ公の銅像維持会の中心をなす東急グループです。その東急グループと大館が仲良くなることを介して、大館だけではなく、東北全体の入り口を作るために何が出来るかということを考えて、まちづくりに頑張っていきたいと考えています。

歴史まちづくりへの取り組みの提言

福原: そして、この中核になるのが、大館の歴史まちづくりですが、清野先生から提案を頂きたいと思っています。

清野: 大変スケールの大きなお話をお聞きしました。これからこうあってほしいと思います。では、私から、歴史まちづくりについて、お話ししたいと思います。

- ① 歴史的建造物の保存補修に取り組む:市内には、桜櫓館や泉家住宅など残したい建造物が色々あります。個人で補修・保存というのは、難しい時代になっています。そのため、文化財を所有している方々が会を作って、対策を考えていくことも必要ではないかと思います。
- ② 歴史的風致地域の景観づくりに取り組む:景観が大変に大切です。例えば、道路の舗装、生け垣、外装など、地域でまとまりのある景観づくりをしていったらどうだろうと思っています。
- ③ 伝統文化の継承と振興・支援に取り組む:道路やコンクリートの建物だけでは、歴史のまちづくりにはなりません。人の活躍、そして、それを楽しむような場を造らないとだめだと思います。
祭りや民俗芸能は、楽しさをもたらし、人と人を結びつけます。昨年の秋、伝統行事の祭典「新・秋田の行事」が大館でありましたけれども、大館の民俗芸能も参加して大変盛り上がりました。
また今、学校では、ふるさとキャリア教育を実施していますが、地域の行事や祭に参加するなどして、将来継承していく子どもたちを今から育てることは大変良いことだと思います。大館では、大館神明社の例祭、アメッコ市、扇田神明社の例祭などがあります。また、鶏めし弁当を小学生が考案しアメッコ市で販売をしています。それから、代野稲荷神社の代野番楽は中学生も参加しているし、浅利氏に由来がある独鈷(とっこ)囃子は東館小学校の子ども達に取り組んでいます。
- ④ 歴史資源の認識向上と情報発信の充実を図る:今、市のまちづくり課が、「大館歴まち散歩」を進めており、大変良いことだと思います。それから、「どこでも博物館」事業で標柱設置を進めており、昨年は17基、今年10基設置予定で動いています。また、秋田犬は、今日も会場入口に来ていましたが、色々なイベントに参加して、だんだんと広がってきています。
- ⑤ 大館が長く育て・守ってきた資源の活用:木の文化としては、豊臣秀吉の時代に、秋田杉が伏見城の築城の用材としても使われています。それから、林業は大館の特徴的な産業で、特産品の曲げわっぱや、八幡神社・桜櫓館といった伝統的な建造物だけではなくて、新しい建物の樹海ドームも木の文化です。また、きりたんぼなどの食の文化、秋田犬・比内鶏・長走風穴と芝谷地湿原の植物群落などの天然記念物は、大館が長い間育て守ってきた資源・文化です。これらをポイントにして育てていけたら良いと思います。

福原: 清野先生ありがとうございました。今、木の時代が見直されて来ていると思いますので、非常に重要な提言だと思います。そして、明日の矢立峠探訪会ですが、1桁国道(7号)から歩いて約5分で、樹齢300年を超える天然秋田杉を見られるのは、ここだけです。先生の提案の様にどんどん発信していくべきだと思います。

今、大館は、大館のためだけに何かをしようとはしません。我が大館は、古里秋田のために何が出来るのか、大館の強みを意識した政策を作ろうとしています。

この様な考えは、坂所長にはどの様に見えますか？

坂: 大変ありがたい。先ほどの3Dなどの連携もそうですが、県北全体がネットワーク化されたという感じがすごく致します。

福原: 鷹巣から角館に行く国道105号、もう一つは能代から鱒ヶ沢に行く国道101号を秋田・青森県と連携して、道を整えて行くと、秋田道と併せて、北東北の中に東西南北の道の繋がりが出来ます。そして、空からの空港は、お客様に来て貰う、また時間短縮のためのハードです。そして、船は物を大量に輸送出来るインフラで、日本に入ってくる物の99%は船できます。そして、今日は鉄道のことは除いていますが、町と町を繋げるのは陸路だと思います。町と町が繋がっている道には、やはり物語が必要だと、今回強く感じました。そのことを改めて皆様と共有させて頂ければと思います。

ここで、今日の私の時間が来てしまいました。ここからは坂所長に進行をお願いします。どうもありがとうございました。(福原市長退席)

坂: 福原市長、ありがとうございました。それでは、清野先生から補足する話題がありましたら、よろしく願います。

清野: 先ほど近世の羽州街道について話してきましたが、江戸時代の大館は、家数や人口はどうだったのが興味があると思います。外町12町のそれぞれの町も分かっていますが、まとめると、宝暦9年(1759)の資料では、家数431軒、人数が2,253人、馬が196疋です。面白いのが、外町の自家と借家です。これがなぜ分かるのかというと、元文3年(1738)に、大館町から出火して、家数200軒余、借家200軒余の都合400軒焼け

たとあります。これから、大館の外町の商人と農民も含め半分位が借家・長屋住まいであったと言えると思います。火事で焼けてもあまり困らないですね。また新しい誰か建てたところに入れればいいという面もあったということです。

それから、同じ年の内町の人数は、3,115 人です。大館の町(内町・外町計)には、大体 5,000 人位住んでいたということになります。この様な人たちが、町の中に住んで、町を動かしていたということで、生活のため羽州街道を利用した輸送が行われていました。

次に、長木川ですが、長木沢の木材を大量に流下させて、大館の材木場で処理されるという恩恵がありました。しかし、よく氾濫しました。氾濫するとどうなるか、八坂神社から最近発見された寛政 4 年の片山村絵図(図-2)で見ると、長木川のところが、枝分かれして流れて、最後に下内川が合流します。河川に沿って柳が描かれており、この辺には柳田と書かれています。片山村の住人が、洪水で土砂が運ばれ田んぼが荒れてしまい、これでは生活していけないので、もう一回検地をやってほしいと訴えました。それで、秋田藩で検地のやり直した時、この絵図を作りました。長木川は、城下絵図などでは一本だけで穏やかに描かれていますが、荒れるとこうなります。

この絵図に深堀関がありますが、この深堀関の元はどこかというと今の白鳥広場です。江戸時代に既に白鳥広場から取水して片山の田んぼに水を入れていたことが分かります。江戸時代には、こういうこともしっかりとやっていた時代でもあります。

羽州街道については、物の流通を重点にして話してきましたが、色々な有名人も通っていました。ただ素通りしたのでは、交流にならないとの考え方もできると思います。大館の人で、遠くに行つて、また帰つて来て、地元の人たちと繋がった人を紹介します。

【館天籟(たててんらい)】 江戸で苦学 10 年。儒学者山本北山の北山塾で塾頭を務めました。教頭先生のようなものです。後に、秋田藩校の明德館で教授になっています。

【藤森江岸】 江戸・京都で各々 10 年、絵の修行をして帰り、大館の門下を育成しています。

【大館城代十代佐竹義茂】 漢詩や書に才能を発揮して、大窪詩仏というトップ級の漢詩人とも深く交わり、安政の大獄で処刑された頼三樹三郎の来訪も受けています。

【釈無等(しゃくむとう)】 東本願寺で仏教を学び、京都の皆川淇園に儒学を学びました。茶人としても有名で酒田に玉川遠州流を伝えました。今も酒田の人たちは、この人に感謝して大館に来ます。浄心寺住職でした。

【狩野良知】 昌平黌に学んでいます。開国論の「三策」を著しており、後に松下村塾蔵版が刊行されています。

この様に、人々が街道を往来して、大館の文化を高めたと思います。人の交流にも、街道は重要だったと思います。

道路整備の役割・効果

坂: どうもありがとうございました。私からは、今の道路整備の役割と効果の話をしたと思います。



図-14 秋田県北地域の高速道路

10 年前の秋田県北地域の高速道路は、能代東インターチェンジから小坂インターチェンジまで全く高速道路なかった状況でした。

図-14は、現在の状況です。小坂から順次に延びてきて、昨年に鷹巣インターチェンジまで東側から伸びて来ました。西側を見ますと、能代東インターチェンジから二ツ井白神インターチェンジまで延び来ています。まだ未開通の区間がありますが、10 年前に比べると東北自動車道と秋田道が繋がりがつあることが分かります。

そして、今年度には、鷹巣インターチェンジから 1.7km 西側に伸びて、日本一地方空港に近いインターチェンジが出来ることとなります。



図-15 大館能代空港(東京便)の利用客数推移

図-15は、大館能代空港の利用客推移です。今は羽田便だけなので、羽田便だけ抜き出して見ると、秋田道の延伸にしがたって、利用者数の推移も伸びている状況で、平成28年は13万人を突破し、今年も1月から7月のデータを前年に比べると大変伸びています。

大館能代空港からの60分で到達出来る地域(カバー圏域)を見ると、高速道路の整備に伴い60分で到達出来る地域が東側や西側に広がってきています。例えば、平川市や弘前市の様に青森空港があるエリアや三

沢空港もあるエリアは、空港を選べる事が出来る様になりました。ここしかないのではなく、1時間で行ける空港が複数あり、選択が出来る地域が増えることは強みだと思います。

その結果、大館能代空港に西日本からチャーター便で来るツアー客が大幅に増えています。

ツアーのコースを紹介すると、ツアー①は、大館能代空港に入って来て、十和田湖・奥入瀬渓流行って、湯瀬温泉に泊まり、中尊寺から松島へ、鳴子に泊まり、角館を經由して秋田空港から帰って行きます。

ツアー②は、大館能代空港に入って・出ていくパターンです。能代の風の松原から鱒ヶ沢に泊り、三内丸山遺跡を經由し、三沢に泊、八戸を回って、1周しています。

ツアー③は、2月です。大館能代空港から森吉山の樹氷見て、十和田湖に泊り、奥入瀬渓流から八甲田を通過して、金木へ行き、湯瀬温泉に泊り、大館能代空港から帰る人気コースです。8の字の感じですが。

ツアー④は、5月の菜の花と桜の時期に大館能代空港から、大瀧村を通り、角館の桜を見て、そして中尊寺から弘前の桜、青森から十和田湖を経て、大館能代へ帰って来ます。

大館能代空港を中心に回って帰ってくるパターンには、8の字、qという字、円を描きながら帰ってくるパターンなどと色々あります。

このルートの立ち寄り観光地には、秋田、北秋田や県外がありますが、秋田の人間としては秋田県内をもっと増やせればと思います。

休憩施設と情報拠点となる二ツ井の道の駅は、高速道路インターチェンジが出来るために、今の道の駅を移転する予定です。

先ほど、長木川の氾濫の話がありましたが、米代川は地形地質から見ても、氾濫と蛇行を繰り返しながら今の地形があります。二ツ井のこの位置は、交通の難所だったのですが、羽州街道、国道7号、日沿道と全部集まって来ます。近世でも、ここに加護山精錬所もあり、舟運のある米代川や阿仁川、羽州街道と阿仁街道が集まってくる交通の要衝です。

今、ここに秋田道の小繋インターチェンジが出来ます。そして道の駅が出来ます。ここから秋田道を東に行くと大館能代空港、弘前方面です。西に行くと能代の港に行きます。羽州街道を行けば鷹巣市街地、大館市街地へ。阿仁街道を行けば、森吉山、角館へ向かいます。新・交通の要衝です。

面白いのが、右に行っても左に行っても仙台へは同じ距離です。

最後に

坂: 時間も残りわずかとなりました。清野先生の方から本当に貴重なお話を頂き、福原市長からも大館の歴史まちづくりを踏まえた地域連携の話もございました。

清野先生から、これまでの話を受けて、今後にまちづくりを進めるうえのアドバイスがあれば頂きたいと思います。

清野: 先ほど、木の文化の話をしましたが、少し広域で考えると色々意味が出てくると思います。

大館市内に木の文化と言える古い建物の八幡神社や桜櫓館などや樹海ドームもあります。そして、実際に天然秋田杉を見ようとすれば、矢立峠の矢立杉があります。そこから鹿角の方に足を伸ばせば、小坂に鉱山

事務所や芝居小屋の庚楽館もあります。また、花輪にも昔の図書館や公会堂も立派に修復して資料館となっています。これらも木の文化です。このルートに、観光客を案内するのも良いと思います。旅行を頻繁にした人は、A級の観光地に行かなくなります。B級あたりはどうだろうと、B級グルメみたいになります。そうすると、今のようなコースは非常に面白いのではないかと思います。市や郡を越えた発想で、広域的にとらえた観光開発をすることが大事ではないかと思います。

坂: まだ少し時間があるので、私の方からもお話ししたいと思います。

先ほど、大館能代空港からのツアーコースで「秋田県内の立寄る観光地をもっと増やしたい」と話しましたが、補足したいと思います。

参勤交代で使っていた羽州街道や奥州街道は、当時の大幹線道路で、今で言えば高速道路にあたると思います。



図-16 秋田県北地域の高速道路

この街道と高速道路網に、十和田湖、白神山地、男鹿、森吉山、角館の観光地を入れると図-16になります。秋田新幹線、大館能代空港や高速道路だけのネットワークでは観光地へのアクセスが足りない部分が見えてきます。これに昔の街道である大間越街道、阿仁街道、三戸鹿角街道を少し入れていくだけで、観光地へのアクセスも良くなり、現代の道路ネットワークを大分充実することが出来ることになります。

最後に、今の道路と昔の諸街道を含めたネットワークの話をして頂きました。

これで、第1分科会を終了したいと思います。



オープニング「大館囃子」

【参考資料】

清野 宏隆 氏
プレゼンテーション資料抜粋

プレゼンテーションのスライドから特に参考となる部分を抜粋したものである。
なお、本文に掲載したスライドは外してある。

(2) 羽州街道の道筋・原風景 糠沢・長坂～川口 3



街道の原風景1
長坂入口
道幅は狭く急坂

餅田・片山～釈迦内
街道の原風景2 4

右 御坂 (近世羽州街道) →
左 弁天町への道 (明治の国道)



城下の出入口 通町



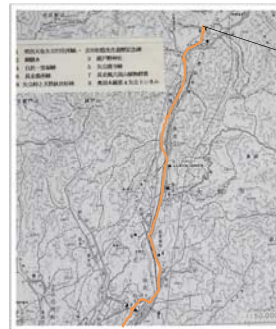
羽州街道 通町から長木川の対岸→

釈迦内～橋桁 街道の原風景3 萩長森付近 5
下内川東岸の河岸段丘上を暗くいさびしい道が続く。



4

白沢～矢立峠 街道の原風景4 矢立峠 6
矢立杉近くの急坂 (秋田側)。左右は急峻な沢。
歴史のある原風景は歴史資源。



5

大館周辺沼館・立花・川口・山田・岩瀬村絵図

(「渡部弁松文書」)
秋田県公文書館所蔵

重右衛門塚(赤)が描かれているので嘉永年間以降の絵図と考えられる。

羽州街道
餅田川は長木川のこと



北

8

南

6

寛政4年(1792)片山村絵図 9
片山町1～3丁目 中央の道路は現国道7号線 「大館八幡神社資料」



片山村
現 八幡神社
一里塚
御坂

現(根下戸)神明社

7

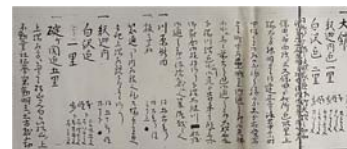
(5)羽州街道と河川 早口川 12

渡し船は坂地と対岸の早口村出口へ。早口村3艘(そう)、七日市村・脇神村・赤石村1艘ずつ、長坂村・板沢村2艘ずつ負担。水の少ないときは徒渡り(かちわたり)。仮橋がかかることも。

長木川
船渡し、夏は瀬越し、津軽藩主の参勤交代の時に仮橋がかかることも。
■狭い道幅、急坂、架橋のない河川などの交通事情が経済発展の障害。自然環境の制約が大きかった。馬車使えず。



早口川 左側に坂地集落



小坂通道中記

8

大館八幡神社 15
第4代城代佐竹義武が建立した大館八幡神社 (国指定重要文化財)
17世紀の代表的神社建築。

大館八幡神社(1687)
(1990年指定)



彫刻に極彩色の装飾
杉材使用
棟札13枚も指定

北側 正八幡宮
南側 若宮八幡宮
柿葺流造
(こけらぶきながれづくり)



9



現在とちがいが、町は何年たってもほとんど変化しなかった。



秋田藩の代表的移出品・米代川流域の天然杉、銅、米 → 能代港

主要な舟場・大館には大巻、舟場、扇田。能代からは鱒など。舟・長舟 幅が狭く長い。扇田には50石程度の長舟。

古川古松軒の『東遊雑記』に「長さ9間半、横は広い所で6尺2、3寸」能代から順風であれば、1~2日。逆風では引き舟3~4日

人も乗船

慶応4年5月奥羽鎮撫副総督 沢三位卿為量が舟場から米代川を下って能代へ。

海上交通は北前船

松前・日本海・瀬戸内・上方の市場を結ぶ。



(4)外町四町 一外町の中核 大町・新町・馬喰町・中町。

酒造業者、酒屋、茶・紙・木綿、市が立つ。宿屋、質屋。祭典も。舟運の発達も影響。

『東講商人鑑』(幕末)

- <あずまこうあきんどかがみ>
- 酒造(大町浜松新助)
- 木綿荒物(大町小野儀右衛門)
- 薬種(馬喰町布袋屋金右衛門)
- ろうそく(中町練屋太七)
- 絹布・木綿(中町原田屋金三郎)
- 薬種(浪花組 長井久左衛門)
- 東講定宿(大町越前屋吉郎右衛門)
- 筆墨紙荒物(新町高橋清兵衛)



4 歴史まちづくりにあたって 24

(1)歴史的建造物の保存補修に取り組む。

市内には残したい建造物(江戸~昭和)がある。しかし、文化財の保全は個人では難しくなっている。例えば、文化財所有者の会を設置して、保存補修対策を考えてみたらどうか。

桜櫓館(旧桜場家住宅 1933年) 国登録有形文化財 1999年登録



泉家住宅 明治時代



(2)歴史的風致地域の景観づくりに取り組む。

歴史的景観に調和した舗装や道筋を生け垣などでまとめた景観づくりなどをしてみたらどうか。まとまりのある景観はおもむきがある。

(3)伝統文化の継承と振興・支援に取り組む。

祭・民俗芸能は楽しみをもたらすだけでなく、人と人を結びつける役割も持っている。そして、地域社会に潤いを与える。昨年の秋、大館市で「秋田の行事」が開催され、大館の民俗芸能が参加。民俗芸能の継承は難しい時代。大館では、学校のふるさとキャリア教育に取り入れていて継承に頑張っている。合同で発表できる場があればよい。

写真 中 扇田神明社の例祭

後方 長岐留武家門 明治中期の建造物 下 代野稻荷神社の代野番楽 中学生も参加



大館神明社の例祭 上・下

アメッコ市



独鈷囃子(東館小)



大館囃子 樹海ドーム

(4)歴史資源の認識向上と情報発信の充実を図る。

歴史まち散歩はこれまで大館市文化財保護協会が平成20年から毎年実施。平成27年には秋田県教育委員会の主催で実施、28年には大館市まちづくり課が5回実施、保護協会が案内して協力。実施によって、発見したのものも多かったと思う。

標柱設置は「どこでも博物館」の事業として昨年度スタート。秋田犬は情報発信・イベント開催により広く知られてきた。知ることによって、ふるさとへの愛着は深まる。

歴史まち散歩 狩野良知・亨吉生家跡



狩野亨吉 (1865~1942)



鳥潟隆三 (1877~1952)

鳥潟会館



(5)木の文化、食の文化、天然記念物(秋田犬、比内鶏、長走風穴高山植物群)など大館が長く育て、守ってきた資源を活用する。

木の文化: 16世紀末、豊臣秀吉は秋田杉に注目。秋田杉が長木沢から造船(特に帆柱)や伏見城築城の用材として送られた。林業は大館の特徴的な産業である。特産品曲げわっぱ、八幡神社、桜櫓館などの伝統的建造物、樹海ドームなどはまさに木の文化である。



左上 天然秋田杉 矢立峠「矢立峠風景林」遊歩道入口から近い。

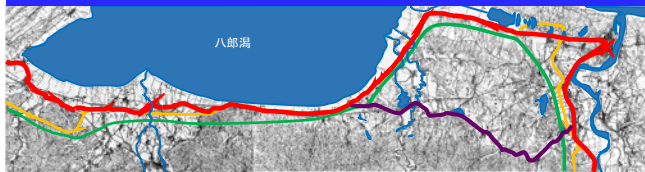
【参考資料】

坂 憲浩 氏

プレゼンテーション資料抜粋

プレゼンテーションのスライドから特に参考となる部分を抜粋したものである。
なお、本文に掲載したスライドは外してある。

羽州街道(国道7号)(八郎潟～能代間)



※ 地図は大正元年測量、大正3年調整

- :水域
- :大正元年 当時の国道表41号
- :羽州街道
- :現在の秋田道 (日沿道)
- :現在の国道7号

明治8年(1875年)ドイツ人機械技師 ハクマイル氏の行程



秋田県北部の交通史
能代河川国道事務所

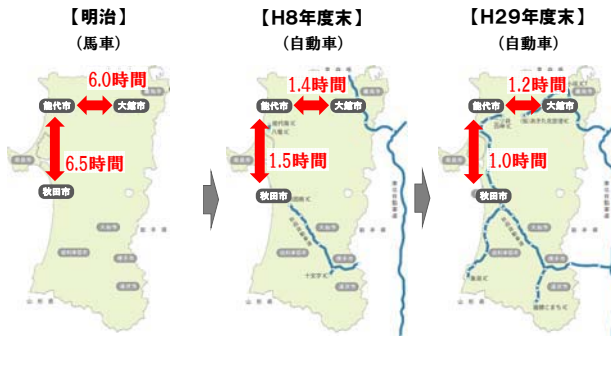
宇宙関連施設への燃料輸送

- 東北地域のロケット関連施設
- ・ 三菱重工田代試験場-国産ロケットエンジンの発射前の動作試験機
- ・ JAXA能代ロケット実験場-次世代ロケットエンジンの最先端研究・開発



▲宇宙開発関連の燃料輸送ルート

秋田～大館の営業交通(公共交通)



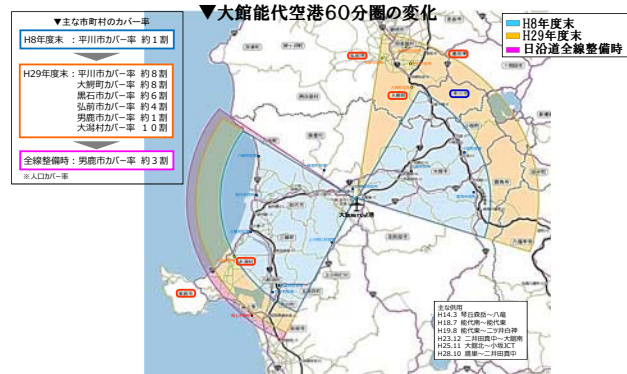
出典:大館市史 第3巻(上)

※H27道路交通センサスに基づき算出

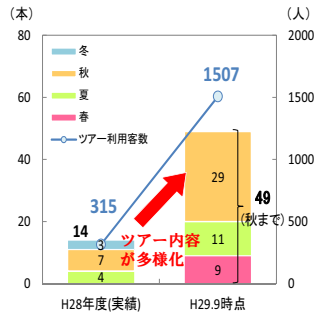
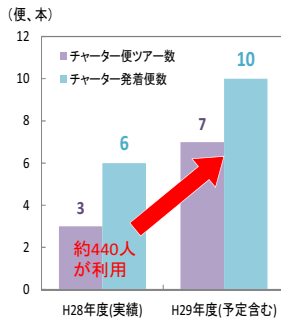
※H27道路交通センサスに基づき算出

空港直結! 県北を変える「あきた北空港IC(仮称)」

- あきた北空港ICの開通で、大館能代空港60分圏の平川市カバー率は約1割から8割に拡大
- さらに、日沿道全線の整備により、男鹿市カバー率は約1割から3割に拡大



チャーター便の動向 と ツアーの動向



国内チャーター便の動向

岡山⇒羽田⇒大館能代空港のツアー動向



15 青森～米代川(川村公一、1994)

小繋IC(仮称)と道の駅「ふたつ」



- 至: 大館能代空港、弘前、小坂町、盛岡、仙台
- 至: 鷹巣市街、大館市街、弘前
- 至: 能代港、秋田市、山形、仙台、新潟
- 至: ニツ井町、きみまち飯公園
- 至: 仙台駅まで盛岡経由 329km
- 至: 仙台駅まで秋田経由 330km

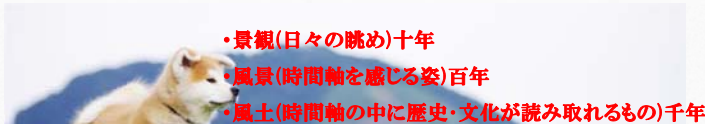
【参考資料】

福原 淳嗣 氏

プレゼンテーション資料抜粋

プレゼンテーションの 슬라이ドから特に参考となる部分を抜粋したものである。
 なお、本文に掲載したスライドは外してある。

1. 大館というところ

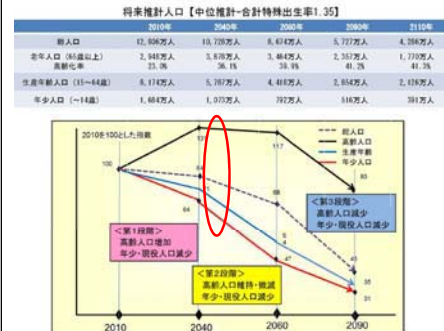


- 大館市歴史的風致維持向上計画が目指す姿
1. 市民がふる里「おおだて」に、「自信と誇り」を持って暮らしていただくこと
 2. 文化財の保全と活用、伝統的な祭礼行事の再興、街並みの景観向上
 3. 地域の魅力向上、良好な住環境形成、広域連携推進、観光振興、固定資産下落抑制

住んでよし・訪れてよしのまちへ

とうほく街道会議 大館大会「第1分科会」大館市の歴史まちづくりの紹介 平成29年10月13日

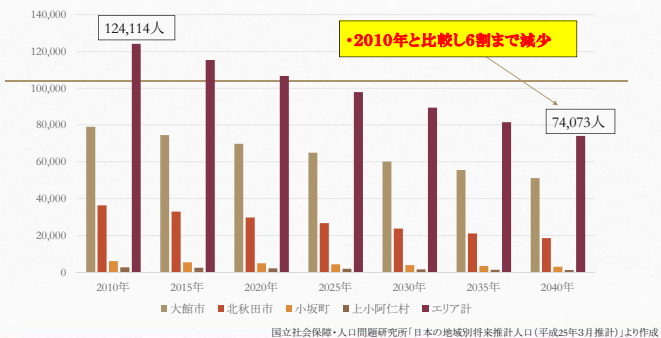
2. 地域によって異なる将来人口動向



- ※現在の大館市は第2段階の入りかけ
- ◆日本の将来人口動向
 - 第1段階: 高齢人口増加時期
 - 第2段階: 高齢人口微減時期
 - 第3段階: 人口減少時期
 - ◆東京圏・大都市: 「第1段階」
 - 地方都市: 「第2・3段階」
 - ◆大館市の人口(平成29年9月末)
 - 年少人口(0~14歳): 10%
 - 生産年齢人口(15~64歳)53%
 - 老年人口(65歳~): 37%
 - ◆20~39歳の女性人口: 5,769人
 - 市全体人口の約8%

国立社会保障・人口問題研究所 「日本の将来推計人口(平成24年1月推計)」より作成

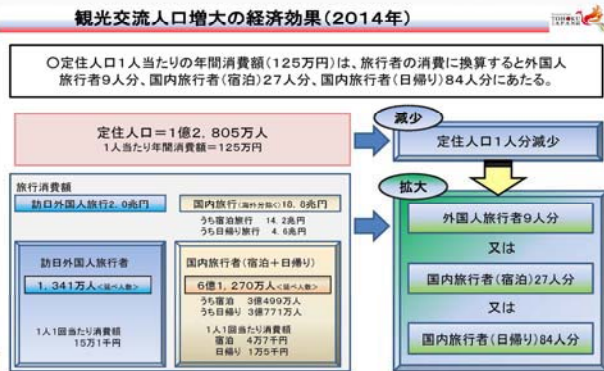
3. 大館市周辺の総人口の将来予測



国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口(平成25年3月推計)」より作成

H29年9月末大館市の人口: 73,861人 ⇨ 2040年の2市1町1村の人口: 74,073人

4. 交流人口増加の指標



5. 地域連携DMO(秋田犬ツーリズム)と3Dの取り組み

DMO(Destination Management Organization) 3つの館(函館・大館・角館)
 地域にある観光資源を繋ぎ、地域と協同して観光地を「つなぐ」を行う法人

大館市・北秋田市・小坂町・上小阿仁村 平成29年5月の函館訪問

6. 秋田犬と3D連携で世界とつながる



9. 一番重要な国土軸を形成する「日沿道」

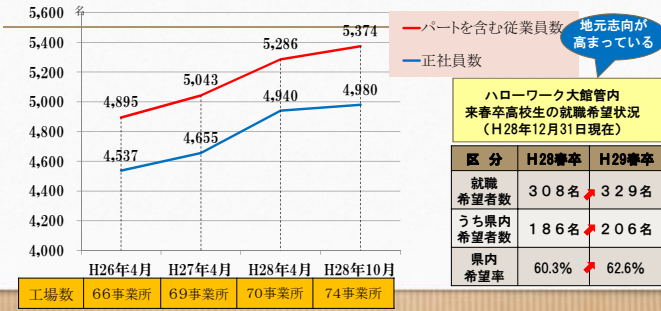


10. 広域連携で地域の強みを生かす取り組み

H29.9 3D連携フォーラム in 角館
 3D連携フォーラム in 角館 (senboku city)
 H29.5 グルメフェスタ in 大館
 H29.9 はこだて グルメサーカス

11. 大館市条例指定工場等の従業員数増加

雇用の場の確保が進捗し高卒者の地元志向が高まりつつある



13. 大館ふるさとキャリア教育の素晴らしさ

ふるさとに生きる基盤を培う「ふるさと教育」 & 人生の指針を描く「キャリア教育」



東館小学校の生徒さんが取り組む強絆離子民俗文化財公開交流事業の様子

矢立小学校の生徒さんが五稜郭でパンフを渡し説明している様子

14. 昭和の大火から復興した大館市



昭和31年の大火・常盤木町上空

昭和28年以降の大館市の大火の場所

16. 大館市の維持向上すべき歴史的風致

資料期間
平成29年度(2017)～平成30年度(2018)

大館市は、秋田の北部を流れる米代川の中流域にあり、秋田・青森・岩手県の結節点に位置する交通の要衝である。この地方は古の時代「D(ない)」と呼ばれ、平安後期は奥州藤原氏、鎌倉時代には遠利氏の支配する地であった。近世に入り大館佐竹氏により形成された城下町が、その後の大館市の礎の礎となり、今も城下町時代の遺や地名が残っている。豊かな自然環境の中で、天然記念物秋田犬が育まれ、雪割田代作の伝統や風流山田園に続く信濃、市内各地に残る土産品などの歴史や文化が受け継がれ、歴史的建造物とともに大館市固有の歴史的風致が形成されている。

- 1. 城下町下の町割りに残る歴史的風致**
江戸時代の城下町大館佐竹氏により形成された町割りは、町並りや建物の高さなどに特徴。天然記念物の秋田犬や秋田犬の飼育舎が残り、山車が大館市を象徴する祭りである。歴史的に形成された「市」が礎となる。また、大館市は多くの歴史的建造物や文化財が残り、大館市固有の歴史的風致が形成されている。
- 2. 神社・神明社をめぐり歴史的風致**
大館市には、自然の恵みと人々の営みの歴史を伝える歴史的建造物や文化財が残り、大館市固有の歴史的風致が形成されている。
- 3. 町代岳の作る山に見る歴史的風致**
町代岳は、山そのものの雄偉さと、町代岳の歴史に由来し、山頂に鎮座する大館市固有の歴史的建造物や文化財が残り、大館市固有の歴史的風致が形成されている。
- 4. 天然記念物「秋田犬」を守り育てる歴史的風致**
秋田犬は、大館市固有の歴史や文化の象徴であり、大館市固有の歴史的風致を形成している。秋田犬の飼育舎や、秋田犬の歴史を伝える歴史的建造物や文化財が残り、大館市固有の歴史的風致が形成されている。
- 5. 信濃川沿いに見る歴史的風致**
信濃川は、大館市固有の歴史や文化の象徴であり、大館市固有の歴史的風致を形成している。信濃川の沿いには、歴史的建造物や文化財が残り、大館市固有の歴史的風致が形成されている。
- 6. 沢村氏の作る山に見る歴史的風致**
沢村氏は、大館市固有の歴史や文化の象徴であり、大館市固有の歴史的風致を形成している。沢村氏の作る山には、歴史的建造物や文化財が残り、大館市固有の歴史的風致が形成されている。

17. 大館市の重点区域における施策・事業概要

重点区域の名称 大館市歴史的風致維持向上地域
重点区域の面積 507ha

- 1. 大館城下町と周辺の町並みの景観保全・形成**
大館城下町は、大館市固有の歴史や文化の象徴であり、大館市固有の歴史的風致を形成している。大館城下町と周辺の町並みの景観を保全・形成するため、大館市固有の歴史的風致を形成している。
- 2. 歴史的建造物の保存・活用**
大館市には、多くの歴史的建造物や文化財が残り、大館市固有の歴史的風致を形成している。歴史的建造物の保存・活用を通じて、大館市固有の歴史的風致を形成している。
- 3. 歴史的風致の維持向上と情報発信**
大館市には、多くの歴史的風致があり、大館市固有の歴史的風致を形成している。歴史的風致の維持向上と情報発信を通じて、大館市固有の歴史的風致を形成している。
- 4. 歴史と伝統を基盤とした人々の生活の継承**
大館市には、多くの歴史と伝統があり、大館市固有の歴史的風致を形成している。歴史と伝統を基盤とした人々の生活の継承を通じて、大館市固有の歴史的風致を形成している。

18. 大館城下の町割りに残る歴史的風致

大火を乗り越え、産業の基盤を支えてきた市の中心地に栄える大館神明社例祭時の市民の営み



明治31年 馬籠講 大正時代 石川氏奉納の余興山車 昭和時代の山車
時代の変遷に見る神明社例祭時の山車

19. 扇田神明社をめぐる歴史的風致

歴史的建造物を舞台とした扇田神明社例祭時の市民の営み



武家門の前を巡行する御神輿 御神輿を待つ御旅所当主夫妻 無事に巡行を終え扇田神明社へ戻る一行

20. 田代岳の作占いに見る歴史的風致

田代山信仰の広がりにもみる市民の営み



水深が深い「三五の池」の神の田で作占いをする権禰宜と氏子の皆様

大館市全域に広がる信仰 作占いの養護打ち 水田の水口の「笹とつげ」

21. 天然記念物「秋田犬」を守り育てる歴史的風致1

秋田犬展覧会に見る血統の保存と市民の営み



戦前に開催された秋田犬品評会 昭和25年5月開催第14回全国秋田犬展覧会大館町城南小学校校庭 桜櫓館を背景に開催される本部展(桂城公園)

22. 天然記念物「秋田犬」を守り育てる歴史的風致2

秋田犬保存会の活動と市民の営み



- ・(昭和52年)
会員の浄財により、秋田犬会館を建設
- ・(昭和53年)
地元建設会社の寄付により、国道7号を跨いで、架橋された赤い「桂城橋」
- ・(平成16年)
「望郷のハチ公銅像建立実行委員会」の皆様の方で建立された「晩年のハチ公銅像」

23. 鳳凰山周辺に見る歴史的風致

鳳凰山周辺を舞台とした市民の営み



第1回大文字かがり火鎮火祭(昭和43年7月)



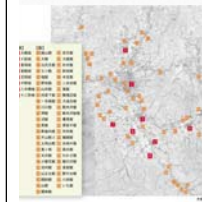
地元小学生の鳳凰山登山



大文字祭り準備(薪積み作業)

24. 浅利氏ゆかりの独鈷の歴史的風致

浅利氏ゆかりの独鈷の歴史を守り育てる市民の営み



広く残る城跡跡
赤色:城
橙色:館



独鈷大日神社例祭



囃子山車奉納時の独鈷青年と独鈷囃子保存会の面々

25. 重要文化財「大館八幡神社」の保全と活用

文化庁の支援を基軸に本殿を保全し後世へ継承



大館八幡神社の拝殿・幣殿・本殿(覆い屋)

平成2年3月19日に国指定重要文化財に指定

若宮八幡宮の屋根と覆い屋の壁柱の接触

26. 「大館神明社」の保全と活用

神明社例祭をはじめとする市民の憩いの場へ(鎮守の森構想)



本殿の盛土の基礎にクラック
⇒基礎改修と本殿修繕

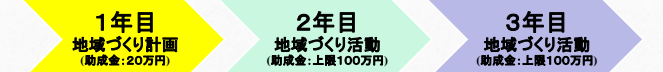


参道整備と多目的広場拡充



お堀の水辺空間改修と散策路整備

27. 大館市地域づくり協働推進支援事業【地域応援プラン】



1年目
地域づくり計画
(助成金:20万円)

2年目
地域づくり活動
(助成金:上乗100万円)

3年目
地域づくり活動
(助成金:上乗100万円)

地区内での意見交換会
先達地視察
地域づくり計画の策定
地区内の合意形成

計画に基づいた地域づくり活動(コミュニティビジネス、伝統芸能、拠点整備、地域コミュニティ活動等)

計画に基づいた地域づくり活動(コミュニティビジネス、伝統芸能、拠点整備、地域コミュニティ活動等)

目的
過疎または高齢化等により、地域の活性化が懸念される中、地域の「地域をもっと良くしよう」「住みやすい地域にしよう」という思いと熱意による創意工夫の地域づくり活動を支援

【事業実施期間】
H22年度～H32年度、32年度の計画策定団体は34年まで
【補助金の限度額】
地域づくり計画の策定は20万円/年(上限額)
計画に基づいて実施する地域づくり活動は100万円/年
【補助率】
計画の策定は10/10以内・地域づくり活動は9/10以内。
【補助事業期間】
地域づくり計画の策定は1年・地域づくり活動は2年以内

29. 大館駅前地区都市整備計画事業

あきた未来づくりプロジェクト



JR大館駅舎再築
仮のイメージ図で現在検討中です

特設用地目録

ハチ公広場

秋田犬ふれあい広場

多目的広場

30. 豊富な地域資源

本州最多 6つの国指定天然記念物



秋田犬



比内鶏



声良鶏



日本ザリガニ生息地



長走風穴高山植物群落



芝谷地湿原植物群落

31. シビックプライドが地域の価値を向上

シビックプライド(まちに対する誇り)が高い人はまちづくりの柱になる

生き方、働き方、住まいの仕方は新たな局面へ

【地域に対する愛着+住むまちへ主体的に関与】

- 【ひとづくり】
・自分たちでまちを何とかしたいと考え活動するプレーヤーが大切
【まち育て】
・「空間」を「場所」に変える(市民の営みが柱)
【まちづくり+物語づくり】
・地図からみるまちづくり+まち歩きによる個性や特徴の発見

大館の未来を紡ぐ物語づくり



[写真] 会場玄関でお出迎えの秋田犬「飛鳥」